

# 亀と黒犬

かめ と くろいぬ



作:近藤せいけん

かめとくろいぬ

むかしむかし さがみのくににあつぎむらというそんらくがありました。

むらのちかくをたいが、さがみがわがながれていました。

そこにおおきななかすがあり、かめ、たぬき、きつねがすんでいました。

あるひのことです。

おおきなさかながなかすにうちあげられていました。さいしょにかめどんがみつめました。

「わあ、なんとおおきなさかなだろう」

「ごちそうだ！たべでがありそうだ」

そこへ、とつぜんおおきなくろいぬがあらわれ、さかなをうばおうとしました。

「ああ、たいへんだ！かめどんがさいしょにみつけたえものをくろいぬがうばおうとしている」

「かめどんをたすけなくちゃ！」

たぬきどん、きつねどんがかめどんにちからをかけておおきなさかなのしっぽをかみ、おもいきりひっぱりました。くろいぬはあたまのぶぶんをかみおもいきりひっぱりつづけています。どっちもいっぽもひきません。

じかんがたっても、「ウ～ウ～ウ～ウ」どちらもうなりこえをあげ、しょうぶがつきません。

おおきなワシがじょうくうから、そのようすをながめていました。すると、スウーとおりてきて、なかすのいっぽんのきにとまりました。

「お～いおまえたち！いつまでそうしているのか？」 「やがて、おひさまもおちちゃうぞ～」

「どうだ、ここは、ワシにまかせぬか」

くろいぬもかめどん、きつねどん、たぬきどんもすでにつかれはてていて、もうちからもでなくなっていました。

そうほうともほぼ、どうじにさかなをはなし、そのばにへたりこんでしまいました。

「さて、なにかきょうそうをしてかったほうがさかなをいただく」

「どうだ、これがよかろう、どうだ！」

くろいぬ 「かけくらべをしよう。なかすのはじまでいってここまでかえってくる、ちいさなかめさん、はやくかえたほうがかち。どうだ！」

すこしかんがえてから、かめどんがこたえた。

「よかろう、ただし、にかいしょうぶにしよう」

くろいぬ 「にかいしょうぶだと？なんだ、それは？」

かめ 「にかいめはこのさがみがわをわたってかえってくる。どうだい、おおきなくろいぬどん」

「いいだろう、おれさまは「いぬかき」という、とくいなおよぎをもっている。みんなにみせてやる、ワァハハハ」

おれさまがもらった。ワァハハハ、ユカイ、ユカイ！」

ワシ「ようしきまった。それではいっかいめはじめよう。たぬきどん、しょうぶはじめのせんじょうにたって、きつねどんなかすのはずれにたって。わしが「ギヤァ！ スタート」とひとこえかけたらしょうぶはじめだ、いいな」

「それでははじめるぞ」

「ギヤァ！ スタート」

くろいぬどんがいきおいよくかける、かめどんはゆっくりゆっくり、のそり、のそりすすむ。くろいぬどんははやくもなかすのはずれにとうちゃく。おりかえしてきて、かめどんをわらう。

「どうだ、おれさま、もうおりかえししてきた。アアハハハ。もういっかい、いってこよう、へへへ！」

くろいぬどんはきつねどんのいるなかすのはずれをめざす。

そしてきつねどんにわざとぶっかって、たおす。

「わるい。わるい。いきおいがつきすぎてね、アアハハハ。じゃな〜」

かめどんはまだなかすのはずれまではんぶんしかいっていない。

「もうあそぶのをやめて、しょうぶをつけよう」

たぬきどんのいるしょうぶせんをこえた。

ワシ「しょうぶあった。くろいぬどんのかち！」

かめどんはまだきつねどんがいるなかすのはずれまでとどいていなかった。

きつね「かめどん、かめどん、しょうぶあった！そこにとまって、もどりなよう」

かめ「ああ〜 まけてしまったか。しかたない。」

きつね「わたしのせなかにおのり。まだ、にかいめがあるから、がんばって。」

かめ「ああ〜つかれた。それじゃおことばにあまえて、せにのせてもらおうか」

かめどんははじめのしょうぶせんにもどった。

ワシ「それではにかいめをはじめめる。よういはよいか。それでは」

「ギヤァ！スタート」

にかいめはたいが、さがみがわをわたってもどってくるしょうぶである。かめどん、くろいぬどん「ドボン！ドボン！」ととびこんだ。とくいはいぬかきで、スイースイーとすすむ。かめどんはすいちゅうにもぐり、つよいながれをさけながらすすむ。さがみがわのほんりゅうにくろいぬどんがかかった。

たぬきどん「あれれ、あれ、くろいぬどんがながされていくよ！」

きつねどん「たいへんだ、くろいぬどんがおぼれそうになっている！」

くろいぬどん「たすけてくれ！ゲボ、ゲボ」

ワシがあわててとびたつた。

「いまたすけにいくから、あばれるな！」

かめどんもおぼれそうな、くろいぬどんにきがつき、もぐりながらくろいぬどんにちかづく。

くろいぬどんのしたへは行って、からだをうかせる。

ワシどんがくろいぬどんのくびをつかみ、きしへひっばる。

たぬきどん「がんばれ！くろいぬどん」

きつねどん「もうすこしだ、がんばれ！がんばれ！」

やっとあさせにくろいぬどんをひきよせた。

くろいぬどんはきしにあがった。

「ゼイゼイ…アア、ゼイゼイ、ゴホン、ゴホン。たすかった。みんなありがとう」

かめどん「よかった、よかった。みずのなかのしょうぶなんかさせて、ごめんね」

くろいぬどん「おれ、おれがわるかった、ごめんね」

ワシ「それじゃ、このさかなをみんなでわけよう」

かめどん「それがいい、それがいい」

「うばいあえばかりない、わけあえばじゅうぶんたりる」

さがみのくに さがみがわでのおはなしでした。

(おわり)